



図122 白山神社



図121 館跡の位置  
5万分1地形図「弥彦」

館<sup>たのこ</sup>ノ腰遺跡 西蒲区馬堀・柿島

館ノ腰遺跡は、かつて存在した鏡瀉<sup>よろいがた</sup>（図一〇三）を望む自然堤防上にある中世の居館跡である。この場所は通称「館ノ腰」と呼ばれ、現在は白山神社の境内や宅地、水田になっている。道路や水路の付け替えなどで土地の区画が大きく変わり、土塁や堀は確認することができない。

発掘調査は行われておらず、館の構造などは分からない。明治時代の地籍図によると、白山神社の鎮座する一区画は、東西三〇メートル、南北四〇メートルほどの方形の区画になっている。この区画の西側に接していた水路は、堀の名残とも考えられる。周辺の地形なども含め、この区画が館の北西域にあたる可能性が指摘されている。

図一二四は、延享二<sup>えんきよう</sup>（一七四五）年に白山神社の境内から出土したと伝えられる古瀬戸の瓶子<sup>へいし</sup>である。口頸部<sup>こうけい</sup>が失われて出土したが、現在は補作されている。底の直径八・四センチメートル、口径三・六センチメートル、胴部の最大径一五・三センチメートル



図123 明治27年の地籍図に記載された神社地



図124 古瀬戸鉄釉瓶子

ル、高さは二九センチメートルで、黒色の鉄釉てつゆうがかかっている。十三世紀末ころのものと考えられている。有力者でないと持てない貴重品であり、そのころには既に館があったものと考えられる。この瓶子は昭和三十六（一九六一）年に巻町の文化財に指定され、新潟市の文化財に継承されている。

館ノ腰遺跡の館の主人は誰なのか。全く不明であるが、馬堀まぼり周辺を支配していた小領主の館と推測されている。伝承によれば漆間氏の居館跡といわれているが、天正五（一五七七）年の古文書に、名塚氏という一族が馬堀周辺を所領としていたという記録があることから、名塚氏に関連した館の可能性もある。